

## ◆大宮のまちの価値・魅力（守るべき価値・創るべき価値）について

	守るべき価値	創るべき価値
都市機能	<p>守①：商都・大宮として、県内随一の商業集積</p>  <p>守②：都心の便利さと緑の近さを身近に感じられる居住環境</p>  <p>守③：サラリーマンだけでない、多様な人の賑わい</p>	<p>創①：東日本の玄関口に相応しい拠点性 (ビジネスの集積、東日本連携の促進する機能)</p> <p>創②：多様な働き方やライフスタイルを実現する先進性</p> <p>創③：開発街区等の持続的な発展（床需要が衰えない機能・設え）</p>
まちの構造	<p>守④：沿道の路面店・飲食店の賑わい・まちの広がり【東口】</p>  <p>守⑤：路地空間の界隈性や居心地の良さ【東口】</p> 	<p>創④：鉄道東西の回遊性の向上によるまちの賑わいの広がり</p>
地域資源	<p>守⑥：駅周辺に広がる多彩な地域資源 (氷川神社、大宮盆栽村、大宮公園、鉄道博物館等)</p>  <p>守⑦：駅周辺で開催される多彩なまつりやイベントの賑わい (中山道まつり、大宮フリーマーケット等)</p> 	
交通	<p>守⑧：東日本の主要都市と結ばれる広域交通の拠点性</p> <p>守⑨：平坦な地形を背景とした自転車の利用しやすさ</p>	<p>創⑤：広域交通結節点に相応しい公共交通の安全性や利便性、快適性</p> <p>創⑥：誰もが安全・快適で歩きやすい歩行者空間</p> <p>創⑦：新たな市街地開発事業を可能とする、円滑な自動車交通</p>
環境・景観	<p>守⑩：氷川の杜、見沼たんぼに代表される豊かな自然環境の身近さ</p> 	<p>創⑧：東日本の玄関口・さいたま市の都心を象徴する風格や品格</p> <p>創⑨：環境負荷の低減を先導する先進性</p>
防災		<p>創⑩：首都直下地震等、大規模災害への備え</p>

◆まちの価値と取組内容の関係性、今後の検討課題

	まちの価値	取組内容	今後の検討課題
都市機能	<p>守①：商部・大宮として、県内随一の商業集積</p> <p>守②：都心の便利さと緑の近さを身近に感じられる居住環境</p> <p>守③：サラリーマンだけでなく、多様な人の賑わい</p> <p>創①：東日本の玄関口に相応しい拠点性 (ビジネスの集積、東日本連携の促進する機能)</p> <p>創②：多様な働き方やライフスタイルを実現する先進性</p> <p>創③：開発街区等の持続的な発展 (床需要が衰えない機能・設え)</p>	<p>1-①東日本の交流拠点に相応しい多様な都市機能の導入 &lt;P&gt;3月を目標に方向性を確認予定 ○導入すべき都市機能や都市活動のイメージ等</p> <p>1-②都市機能誘導方策の活用・拡充 ○都市再生特別地区などの都市計画制度の活用による民間開発の推進 ○企業立地誘致のため施策の展開・拡充 等</p>	<p>○導入する都市機能 ・「大宮の果たすべき役割」や「整備方針」を実現するための開発街区全体における都市機能や施設イメージを確認 例：大宮らしい新たな価値を生みだし、来訪者、働き手、居住者を増やしていく好循環を生んでいくため、「ビジネス」「商業機能」「居住機能」を核として、東日本全体の対流や大宮らしい新たなライフスタイルを先導していく。 ⇒【3月までに構想案に盛り込む】</p> <p>・各開発街区において、各地区の特性や事業性等を踏まえた、担うべき都市機能やイメージを検討 ⇒【各地区での検討及び4地区連携検討会等における連携】</p>
	<p>守⑩：氷川の杜、見沼たんぼに代表される豊かな自然環境の身近さ</p> <p>創⑧：東日本の玄関口・さいたま市の都心を象徴する風格や品格</p>	<p>1-③大宮の個性、風格と品格を醸し出す景観の形成 ○氷川の杜、見沼たんぼ等の豊かな自然環境を感じさせる緑化やデザイン ○風格や品格を醸し出す統一感のある建物デザイン ○東日本の対流拠点に相応しい都市景観の向上に資する無電柱化等の推進 等</p>	
	<p>創⑨：環境負荷の低減を先導する先進性</p>	<p>1-④環境負荷の低減に向けた先進的な取り組み ○再生可能エネルギーや省エネルギーシステム等の導入 ○開発街区の連携による地域エネルギーシステムの導入 等</p>	
	<p>創⑩：首都直下地震等、大規模災害への備え</p>	<p>1-⑤大規模災害を想定した防災まちづくり ○市街地開発事業による市街地の更新 ○BCP(事業継続計画)を支える、災害に強い建物への更新や設備の導入 ○地区間の連携・分担による防災対応機能の強化 等</p>	
歩行者ネットワーク	<p>守⑥：駅周辺に広がる多彩な地域資源 (氷川神社、大宮盆栽村、大宮公園、鉄道博物館等)</p> <p>創④：鉄道東西の回遊性の向上によるまちの賑わいの広がり</p> <p>創⑩：首都直下地震等、大規模災害への備え</p>	<p>2-①駅東西を結ぶ新たな東西軸の整備 ○まちの回遊性を高め、駅周辺の防災性を高める新たな東西通路の整備 ○鉄道のまち大宮をPRする、新たな東西通路を活用した視点場の整備 ○西口の回遊性向上に資する歩行者デッキネットワークへの接続 等</p>	<p>○東西通路の西口デッキ接続 ・新たな東西軸の整備にあたり、西口デッキ接続における現状・課題を確認するとともに、整備の際に考慮すべき点を確認 例：24時間の通行可能かつバリアフリーが確保された、西口の回遊性向上に資するアクセス経路としていく。 ⇒【3月までに構想案に盛り込む】</p> <p>・西口デッキ接続箇所周辺の地権者との協議・調整を行いながら、必要な機能や規模を備えた西口デッキ再整備のあり方を検討 (デッキ延伸や溜まり空間、昇降施設の配置、建物内の縦動線の確保等) ⇒【構想策定後の個別整備計画にて確定予定】</p> <p>○自転車通行 ・新たな東西軸における自転車通行について、過年度交通量調査の結果や自転車通行事例、自転車通行のメリット・デメリットを整理した上で、検討の方向性を確認 ⇒【構想策定後の個別整備計画にて確定予定】</p>

	まちの価値	取組内容	今後の検討課題
歩行者ネットワーク	<p>守④：沿道の路面店・飲食店の賑わい・まちの広がり【東口】</p> <p>守⑤：路地空間の界索性や居心地の良さ【東口】</p> <p>創⑥：誰もが安全・快適で歩きやすい歩行者空間</p> <p>創⑧：東日本の玄関口・さいたま市の都心を象徴する風格や品格</p>	<p>2-②個性ある路面店や飲食店が連なる「賑わい交流軸」の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○駅から東口（一番街、一の宮通り、氷川参道など）を結びつけ、沿道に並ぶ高感度な路面店や飲食店から賑わいを感じるような歩行者軸の形成</li> <li>○賑わいを創出し、連続性を確保していくための沿道空間の使い方、デザインのルールづくり等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歩行者空間のイメージ</li> <li>・賑わい交流軸のイメージ（模型・スケッチ等）を共有</li> </ul> <p>⇒【3月までに構想案に盛り込む】</p>
		<p>2-③大宮を象徴し快適に歩ける「シンボル都市軸」の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○住民が誇りを感じ、来街者が大宮の風格や品格を感じるような、駅に直結するシンボリックで快適な歩行者軸の形成（中央通り）</li> </ul> <p>&lt;P&gt; 3月を目標に方向性を確認予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○デッキレベルから地上への降ろし方、まちへの誘導する仕掛けの設置（交流広場への視点場としての溜まり空間の確保、大階段の整備、シンボリックな縦動線の確保等）</li> <li>○氷川参道への繋がりを感知、風格と品格を備えた道路の緑化の推進等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歩行者空間のイメージ</li> <li>・シンボル都市軸のイメージ（模型・スケッチ等）を共有</li> <li>・「沿道の路面店・飲食店の賑わい・まちの広がり」をまちの価値として共有することにより、デッキから地上に降ろすための仕掛けの設置（視点場や縦動線）の必要性を確認</li> </ul> <p>⇒【3月までに構想案に盛り込む】</p> <p>⇒ <b>駅・広場・まちの関係性（概念イメージ）</b></p>
		<p>2-④路地空間の界索性を意識した開発の促進</p> <p>&lt;P&gt; 3月を目標に方向性を確認予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○開発街区と隣接する既存のまちの路地空間との連続性の確保</li> <li>○開発街区内外への路地空間の雰囲気、界索性の継承</li> <li>○歩行者ネットワークの結節点における辻空間の確保等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歩行者空間のイメージ</li> <li>・開発街区における路地的な空間を継承する際のイメージ（模型・スケッチ等）を共有</li> <li>・「路地空間の界索性や居心地の良さ」をまちの価値として共有することにより、開発街区と既存の路地空間との連続性確保の必要性を確認</li> </ul> <p>⇒【3月までに構想案に盛り込む】</p>
		<p>守⑦：駅周辺で開催される多彩なまつりやイベントの賑わい（中山道まつり、大宮フリーマーケット等）</p> <p>創①：東日本の玄関口に相応しい拠点性（ビジネスの集積、東日本連携の促進する機能）</p> <p>創⑩：首都直下地震等、大規模災害への備え</p>	<p>3-①多様な交流を促す交流空間の新設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○東日本の企業や団体等が見本市、企業PR、イベント等を行えるとともに、地元住民や事業者等が祭りやイベント等で活用できる交流広場の整備</li> <li>○大規模災害の一時避難に対応できる広場空間の確保等</li> </ul>
駅前空間	<p>守⑧：東日本の主要都市と結ばれる広域交通の拠点性</p> <p>創⑤：広域交通結節点に相応しい公共交通の安全性や利便性、快適性</p> <p>創⑥：誰もが安全・快適で歩きやすい歩行者空間</p>	<p>3-②広域交通結節点に相応しい交通基盤の再整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○不足しているタクシー乗降場の拡充とともに、バス乗降場等の適正配置による集約化や地下空間の活用等も視野に入れたコンパクトでも利用しやすい交通広場の再整備</li> <li>○駅やまちとの接続がバリアフリーでインバウンドにも対応した案内情報提供等の利便性と、雨にも濡れない等の快適性を備えた交通広場の整備</li> <li>○歩行者と公共交通優先のターミナル街区とするための一般車乗降場の外縁部での確保や、地域荷捌き施設の確保</li> <li>○さらなる拠点性の強化を目指した空港連絡バスの乗り入れへの対応等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○駅前空間イメージ</li> <li>・駅・開発街区・まちをつなぐ際の考え方を共有するとともに、開発街区における事業性等の観点から、駅と開発街区をデッキレベルでも接続し一体性を確保することを確認</li> </ul> <p>⇒【3月までに構想案に盛り込む】</p>
	<p>創③：開発街区等の持続的な発展（床需要が衰えない機能・設え）</p> <p>創⑧：東日本の玄関口・さいたま市の都心を象徴する風格や品格</p>	<p>3-③駅前空間の一体性を高める顔づくり</p> <p>&lt;P&gt; 3月を目標に方向性を確認予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○デッキレベルでの駅と開発街区の接続</li> <li>○大宮の顔に相応しい緑化やデザイン等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○駅前空間イメージ</li> <li>・駅前空間イメージ</li> <li>・ターミナル街区における駐輪場とアクセス経路の配置の考え方を確認</li> </ul> <p>例：誰もが安全・快適で歩きやすいおもてなし歩行エリアとするため、自転車駐輪場を外縁部に配置するとともに、それらに安全にアクセスできる自転車ネットワークを確保していく。</p> <p>⇒【3月までに構想案に盛り込む】</p>
	<p>守⑨：平坦な地形を背景とした自転車の利用しやすさ</p> <p>創⑥：誰もが安全・快適で歩きやすい歩行者空間</p>	<p>3-④自転車利用環境の充実</p> <p>&lt;P&gt; 3月を目標に方向性を確認予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自転車駐輪場の適正な配置等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自転車利用のあり方</li> <li>・ターミナル街区における駐輪場とアクセス経路の配置の考え方を確認</li> </ul> <p>例：誰もが安全・快適で歩きやすいおもてなし歩行エリアとするため、自転車駐輪場を外縁部に配置するとともに、それらに安全にアクセスできる自転車ネットワークを確保していく。</p> <p>⇒【3月までに構想案に盛り込む】</p>

## ◆ 駅・広場・まちの関係性（概念イメージ）

- ・大宮東口には、「沿道の路面店・飲食店の賑わい・まちの広がり」や「路地空間の界限性や居心地の良さ」といった守るべき価値を有する。
- ・ターミナル街区の再整備にあたっては、ターミナル街区内（駅⇔開発街区）で閉じてしまうのではなく、まちの広がりや路地空間のつながりを意識した開発や空間構造による「誰もが安全・快適で歩きやすい歩行者空間」を形成していく必要がある。
- ・これにより、来訪者がより一層大宮のまちを回遊するとともに、ターミナル街区の求心性が高まり、住民の日々の暮らしの拠点となる駅前空間の形成につながっていく。

- ・これを実現するため、開発街区の事業性を確保する観点から、駅と開発街区を最低限のデッキで直結する一方で、デッキレベルにある駅から切れ目なく歩行者を地上レベルに降ろし、まちへ誘う工夫を行うとともに、開発街区と既存の路地空間とがつながり、まちに人の流れを広げていくことが望ましい。
- ・これとあわせ、地下空間の活用を視野に入れた道路ネットワークの強化・拡充や、駐輪場の駅前空間の外縁部への配置等、駅前空間における歩行者中心の移動環境を整えていく。

### 3-③ 駅前空間の一体性を高める顔づくり

- 歩行者の利便性の向上と開発街区の持続的な発展に向けた、デッキレベルでの駅と開発街区の接続
- 空間的・視覚的に駅とまちがつながる縦動線の確保

- まちづくり全体の調和に向けた個別の開発街区でのルールづくり（沿道空間の作り方等）  
⇒ 次年度に予定するガイドライン等で検討

### 2-③ 大宮を象徴し快適に歩ける「シンボル都市軸」の形成

- 駅から歩行者を地上レベルに降ろし、まちへ誘導するためのシンボル都市軸への視点場、空間的・視覚的に開発街区とまちがつながる縦動線の確保

### 2-④ 路地空間の界限性を意識した開発の促進

- 歩行者の流れをまちに広げるための、開発街区と既存の路地空間との連続性の確保

